

始良市特産品協会 会員インタビュー

株式会社 わくわく園 様



1日に3センチ伸びる桑の木

株式会社わくわく園様は、農薬、化学肥料不使用の桑を用いた商品を展開している。
始良市加治木町反土に所在する本社に代表取締役社長の青木基暢様を訪ねたところ、ご厚意により、桑の葉を摘む現場を案内していただいた。

小雨の中、加治木町小山田の坂を車で15分ほど上っていったところにある桑畑に到着した。
桑の木は2～3メートルの高さになっていたが、これらは今年の4月に芽吹き伸びてきたものであるという。桑の木は1日で3センチほど伸びるようで、あまり伸びすぎると摘むときに手間がかかるため、2m50cm程度で収穫することが多いとのことだ。

一度の収穫で袋にして160袋ほどを収穫し、その重量は1000kgにもなる。

桑畑見学の後、本社でインタビューをさせていただいた。

創業のきっかけ

――2005年に創業、今年12年目を迎えるわくわく園様ですが、創業のきっかけを教えてください。

「当時、化粧品店に勤めていました。そこで、何かこれまでの商品のプラスアルファの品物が作れないかと探していました。そのとき、桑の葉、桑の実がすごく身体に良いということで、桑の実でサプリメントを作ってみようというのが桑との出会いでした。」

――桑の実でのサプリ作りがはじまりだったということですね。

「そうですね。ブルーベリーが目が良いというのはよく言われていますね。あれはアントシアニンという色素を多く含んでいることからその効能があると言われてます。

調べてみると、桑の実にはブルーベリーの3倍から5倍の量のアントシアニンを含んでおりまして、それならば桑の実の方が良いのではないかとということで試験的に植え始めました。

ただ、何年か経ってみると、桑の木は思ったほど伸びず、収穫量も悪いという状態でした。

そこで、桑の実よりも桑の葉で何か作れないかということになりました。」

県外出身の青木社長は、ご結婚を機に鹿児島で仕事をされるようになった。前職はなんと海上自衛隊の幹部搭乗員である。

独立への強い思いが、転職を促したのだろうか。

「正直なところ、桑への思いというよりは、自由にやりたいという思いのほうが強かったですね。」と青木さんは笑う。

一念発起して独立されたが、当初予定していた桑の実のサプリについては、収穫量を確保できず商品化には至らなかった。

最初の商品は、桑の葉を使った「桑つぶぱわー!!」というサプリである。

――創業から7年後に法人化をされました。これまでを振り返られて、今どのように思われますか。

「苦労したという感じはなかったです。ただ、努力してきました。がむしゃらにがんばってきたかなというところですね。」

洗練された商品パッケージ

――ホームページを拝見しました。レイアウトもそうですが、商品のパッケージもすごく洗練されておられますね。

「弊社は、桑を育てて加工して販売するという六次産業化に取り組んでいます。良いものを作っても外見が悪くないとなかなか伝わらず、価値をつくることができません。



現在、栽培に関しては、有機栽培を行うことができ
ており順調に進んでいます。また、加工に関しても良
い状態の工場になってきております。

販売に関しては、以前はもっとシンプルなパッケー
ジでした。ただ、せっかく良いものを作っても、パッ
ケージが魅力的でないと、その良さを伝えることがで
きません。

そのため、商品の価値を上げるために、プロの方に
お願いをしたり自分たちで考えたりして今に至ってい
ます。」

**――知名町やさつま町など、他の自治体の視察を積
極的に受け入れておられますね。**

「食品としての桑の認知度を高めないといけないと
思っています。最初は、試飲販売をさせてもらっても、
桑なんか飲めるの？食べ物になるの？という声があ
り多かったですね。たとえ良いものであっても、知
らないものは買わないですね。なので、まずは知
ってもらおう、知ってもらったうえで良いものを選
んでもらおうと。このように考えています。」

新しいものであっても、知っているものや想像がで
きるものについては買おうという気持ちになるが、ま
ったく知らないものや想像がしにくいものは、棚に陳
列されていても買おうという気にならないのが消費
者の心理だという。

「桑は健康に良いということを多くの方に知ってもら
うために、対面販売を基本にしています。」

――積極的に県外の催事にも出られていますね。

「より人口の多いところに行って、多くの方に知
ってもらおうと、首都圏のデパートでの販売に力
を入れています。」

県外の催事にいざ出陣した当初は青木社長ご自身
が行かれていたが、最近は社員に任せているとい
う。

「弊社は、栽培・加工・販売の3つの業務を行
っておりますので、通常の業務だけでも十分忙しい。
会社を切り盛りするために、私が積極的に販売に
立つのではなく、販売ができる人間を育てて、紹
介する部分を任せるといった形ですね。」

ふと、社内に掲示されているカレンダーに目を
とめると、中国・上海への出張の予定が組まれて
いた。尋ねると、上海の富裕層には糖尿病を
気にされている方が多いようで、その方々を
ターゲットにした商談会に参加する予定だとい
う。

桑の効能

**――ここ数年、健康志向は高まっていると思われ
ますか。**

「すごく高まっているかという、実はそのよう
には思っておりません。10年前に比べて、みんな
が健康づくりに勤しんでいるかという、そんな
ことはないかな。」



健康を気にしている人は増えているけれども、美味しいものもたくさん食べたいという方が多いのが現状ですね。それをカバーするのに桑はすごく良いと思います。

ただ、ひとつ言えるのは、桑の働きを知っている人は増えてきたと感じています。少しずつではありますが、糖質対策に桑って良いらしいよ、との声が出てきました。

じわじわと活動してきた効果が出てきたのかな。」

――青木社長ご自身の食生活はどのようなものですか。

「昔と今で、僕自身の食生活が大きく変わったかという、それほど大きな変化はありません。ただ、年をとるにつれて、基礎代謝は落ちてきているのを感じます。そのためにも健康に良いものは積極的にとる必要があると思っています。」

――桑を身体に取り入れられることで、何か顕著に感じられることはありますか。

「まず言えるのが、お通じがすごく良くなったということです。お腹の中がすっきりします。便（べん）は便り（たより）とも読めます。身体の状態のお便りなんですね。

疲れにくくもなりましたね。」

――効果が感じられるまで、どのくらいかかりますか。

「サプリの場合は、2、3日も取ればお通じの状態が良くなってきます。普段、炭水化物をよく取る人ほど顕著に表れるようです。炭水化物と桑は相性が良いようです。」

――便秘がちな方にとっては朗報ですね。



「はい、期待していただいて良いと思います。では、なぜお通じが良くなるかということ、まず、桑は食物繊維が豊富です。お腹の中をきれいにしてくれる働きがあります。また、糖質の吸収を抑える働きもあります。

抑えられた糖質はどうなるのかというと、大腸まで届いて善玉菌の餌になります。大腸には相当数の菌が棲んでいるといわれていますが、その菌の状態を良いものにしてくれます。

また、妊娠されている方にとっても効果があります。鉄分不足で貧血気味になりやすく、妊婦さん特有の糖尿病になりやすい状況になるようですが、カフェインも入っておりません。小さなお子様にもお勧めです。」



新商品「本気のコラーゲン」

――「純粹桑青汁」「さつま桑茶」「桑つぶばわー!!」「マルベリー黒酢」が主力商品かと思います。「本気のコラーゲン」というのは新商品でしょうか。

「コラーゲンと桑は相性がいいんです。身体の中が酸化すると俗に「錆びる」と言われますね。糖質が多くなりすぎると、これも身体の老化を加速する。これらを抑えてくれる働きがコラーゲンにはあります。

コラーゲンというと、肌をツヤツヤにしてくれるというイメージがありますね。コラーゲンはたんぱく質の一種で、皮膚もそうですが、髪の毛、軟骨、アキレス腱などに多く含まれています。

コラーゲンの多いところというのは怪我をしやすかったり、老化が顕著に表れてくる箇所でもあります。コラーゲン生成は20歳代をピークにどんどん下がっていく。年齢を重ねると髪の毛が細くなったり、肌に皺ができた、膝や腰が痛くなったりします。これらの症状を補ってくれるのがコラーゲンです。

コラーゲンをとることによって、身体の中にある信号もコラーゲンをもっと作ろうという働きをとるようになります。したがって、外からとることによって、それが刺激となって内側からも生成しようという動きが出てきます。」

糖質をとりすぎるとコラーゲンは痛みやすくなるという。そこで、桑の出番である。

「桑の葉は糖質を抑えてくれます。併せてコラーゲンをとることによって、皮膚や腱を強くします。コラーゲンは上質なたんぱく質でもあります。コラーゲンと桑を両方とることによって、身体を強くしつつ糖質も抑えてくれますので、相乗効果が得られます。」

――どのように取るのがお勧めですか。

「粉末になっているので、炒飯などの炒め物に入れてもいいですし、ジュースとかコーヒーに入れても良いと思います。味がしないので、何に入れてもOKですよ。」

コラーゲンというと、豚や牛の皮をゼラチン質の形状にしたものがイメージされるが、「本気のコラーゲン」はギョヒ、魚の皮のコラーゲンを使用している。

「一般的に、コラーゲンは動物の皮膚を使っているのでどうしても生くさい匂いがしてしまう。そこで、匂いが少ないということで魚のうるこのコラーゲンも登場しました。ただそれでも魚臭さがあつたり、色が付いていたりします。

魚皮の場合は色も綺麗ですし、味もほとんどしません。ということで、お米を炊くときに入れたり、ジュースに入れたり、ヨーグルトに入れたり、何に入れても味の邪魔をすることがありません。

例えば、通常の食事でコラーゲンを5グラム取ろうと思ったら、ものすごい量の食事を取らなければならず、それでは当然高カロリーになってしまいます。

「本気のコラーゲン」は、脂肪を取らずにコラーゲンを100パーセント粉末で取ることができます。メタボを気にされている方にとってもお勧めです。」



桑茶も青汁もおすすめてです



こちらから提案することが多いです。」

「純粋桑青汁」が一番売れている商品だという。冷たいままで飲めるというのが大きいのだろうか。

「青汁は、もともとの市場も桑に比べれば非常に大きいです。みんな青汁は知っていますが、桑茶はまだまだですね。」

— はじまりは桑のサプリということを先ほどお聞きしました。そもそも、なぜ桑だったのでしょうか。桑との最初の出会いを教えてください。

「当時、私の幼い子どもたちは木の実をとることが好きでした。祖父が所有している山林があるのですが、子どもたちも喜ぶし、実のなる木があったら良いですね、じゃあいろいろ植えてみましょうか、という話になりました。」

でも、仕事があるから、ほったらかしにしても大丈夫なものがないだろうと調べていたら、桑の実も良いらしいよという話を聞きまして、では、桑を植えてみましょうとなったのがきっかけです。」

— 鹿児島の大気と桑の相性はいかがですか。

「すごく良いです。日照時間が長くて日差しが強い。気温も温暖で湿潤な気候。桑の栽培に適しています。また、鹿児島は酪農をされている方が多いため、良質の堆肥が安く手に入るのもありがたいです。」

— 「純粋桑青汁」「さつま桑茶」「桑つぶばわー!!」など多くの商品がある中で、こんな方にはこれが合います、というのを教えてください。

「ご本人にとって飲みやすいものを飲んでいただくのが一番です。その中で、青汁をつくるよりもサプリでパッと取ったほうが便利だという方はサプリで取っていただいて、お茶の代わりに飲みたいという方は、純粋桑青汁かさつま桑茶が良いと思います。」

— 青汁と桑茶で迷った場合はどのように考えればいいでしょうか。

「糖質の吸収はどちらも抑えてくれます。ミネラル分や食物繊維の補給も併せてということであれば青汁の方が良いですね。」

でも、冷たい飲み物をあまり飲みたくないという方は、温かい桑茶を飲んだほうが良い。

お客様のニーズ次第です。それをうかがってこ



――今後はどのような展開を考えていらっしゃいますか。

「規模の拡大も考えております。また、もっともっと身近になってもらいたいですね。最終的には始良の特産品になれるようにと思って活動しています。」

ホームページの企業情報には「桑の葉文化の普及を目指して」とある。

商品は、わくわく園本社の他、くすくす館、加治木ふれあい物産館などで購入可能である。通販等の詳細はホームページをご覧ください。



お問い合わせ

〒899-5231

始良市加治木町反土4-15-249

株式会社 わくわく園

電話 0995-62-3030

<https://www.wakuwakuen.com/>

取材者

〒899-5492

鹿児島県始良市宮島町25

始良市役所 商工観光課 商工振興係

電話 0995-66-3145